

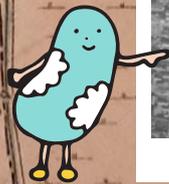
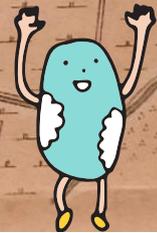
名古屋市実測全区 (明治 37 年)

[名古屋市教育委員会、市政資料館所蔵]

水をめぐる旅

鶴舞公園

平成三十年三月発行
編集・名古屋市環境局
連絡先電話番号・052(972)2675



名古屋市都市計画写真地図 (昭和 30 年)



図3 鶴舞公園周辺の表層付近の地質
[名古屋市治水マップ(平成5年名古屋市環境保全局)の一部]
※同マップは名古屋地質図(昭和63年社団法人土質工学会中部支部)を参考に作成したものです



図1 名古屋市の地形
最新名古屋地質図(昭和63年社団法人土質工学会中部支部) p26をもとに作成

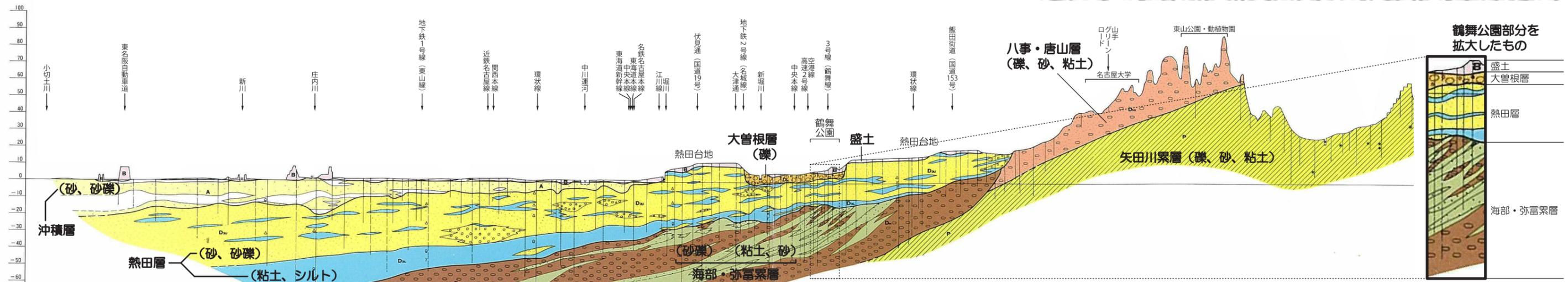


図2 名古屋市の縦断面図(切断面は図1参照) [名古屋市地質断面図集 昭和62年名古屋市公害対策局のうち5-5'断面の一部]

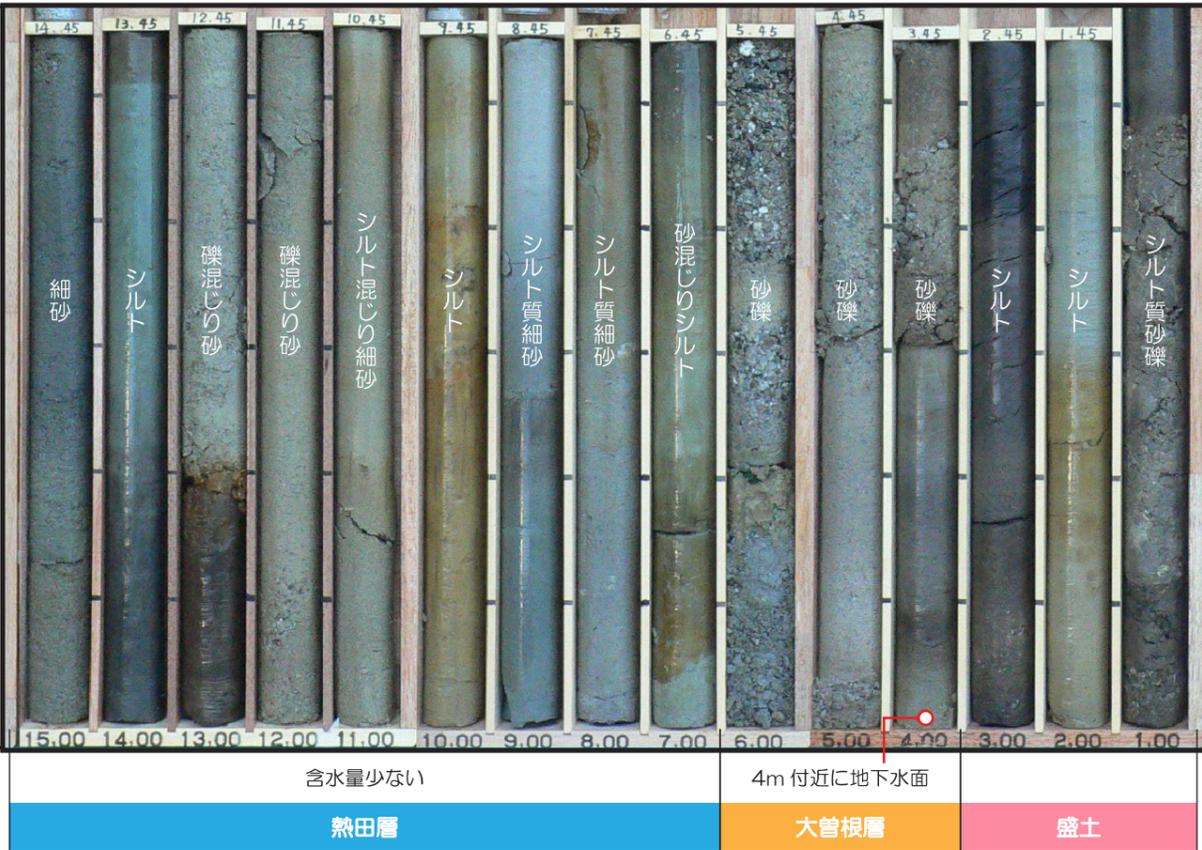


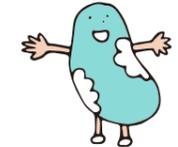
図4 ボーリング調査によるコア写真(平成28年名古屋市環境局)
写真の数字は、地下深度を示します。例えば、右から2番目のコアは、地表面下1.45~2.00mのものです。

湧き水は、どこからきたのか
名古屋市の地形は、図1のようになっています。西から東へ沖積平野、台地、丘陵に分けられます。地域の地質を断面で見ると、図2のようになります。台地(熱田台地)の中央部には、周辺より2~3m低い大曽根面が南北に伸びています。大曽根面は、かつて熱田台地の上を川(今の矢田川または庄内川の昔の流路)が流れ、台地を削りながら砂や礫を堆積した「大曽根層」と呼ばれる水を通しやすい地層からなります。鶴舞公園付近を拡大したものが図3です。鶴舞公園は、熱田台地と大曽根面にまたがっていることが分かります。図4は、図書館の湧き水の由来を調べるため、平成27年に、付近で地下15mまでの地質を調査したときの写真です。地表近くに分布する盛土は、新堀川建設の際に出た土砂を埋め立てたものの可能性があります。その下には、水を通しやすい砂礫層が確認され、これが大曽根層と考えられます。さらに下には、水をあまり通さないシルトの層があり、これより下の地層には水分があまり含まれていませんでした。これらを考えあわせると、鶴舞中央図書館の湧き水は、大曽根面およびその周囲の熱田台地等に降った雨が、大曽根層の地下水となり、図書館建設に伴って掘削された壁面から湧き出したものと推定されます。

鶴舞中央図書館の湧き水

鶴舞中央図書館の地下1階には中庭があり、そこにはいくつもの湧き水があります。擁壁に設けられた水抜き穴から湧き出していることや、湧き水を水源とする水盤が設置されていることから、今の図書館ができた当初から存在したと考えられます。地下水は、年間を通じて温度変化が小さく、冬は温かく夏はひんやりと感じることができます。

水量が一番多く、1分間に約120リットル。水質も水道水質基準にわずかに満たないものの、大変良質です。
(立入禁止エリア。イベント時のみ公開)



湧き水を水源とする水盤が設置されています。湧水量は1分間に約16リットル。(立入禁止エリア)

これ以外の地点でも、湧き水が見られる場所があります。排水路に設けられた水抜き孔から湧き出しています。湧水量は1分間に約10リットル。

上の写真は全て、整備前のものです。現在は、地点Bの湧水を活用し、市民のみならずが直接湧き水に触れ、暑や水温などを感じることができるよう、下の写真の施設を整備しました。1の地点は、図書館の開館日ならいつでも見ることができますので、ぜひ一度お越しください。

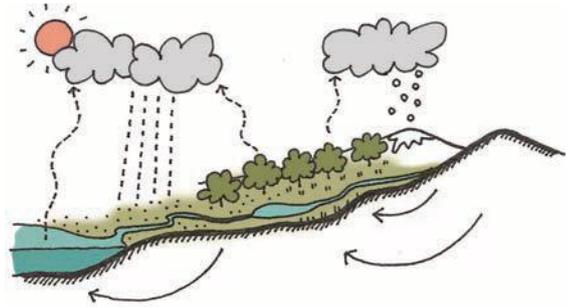


このリーフレットについて

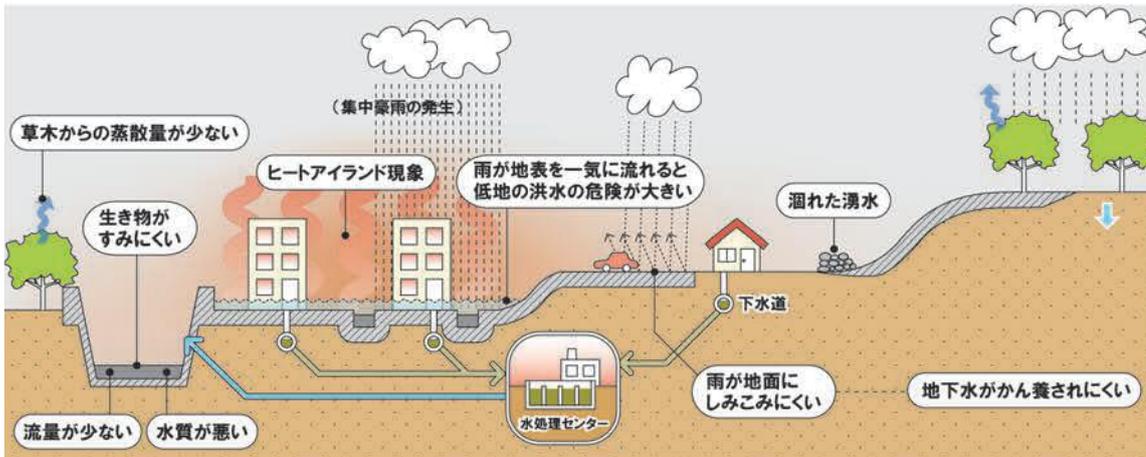
表紙の地図（明治37年=1904年）を見ると、この地域が田んぼの広がる農村だったことがわかります。

昔、降った雨はこんな動きをしていました。

- 雨が降ると、一部は、地面にしみこんだり、池に貯まったりしながら、ゆっくり移動します。
- しみこんだ雨の一部は、土の中を流れながらきれいになり、少しずつ湧き出します。湧き出した水は、川や池などの水量、水質を安定させます。
- しみこんだ雨の一部は、木や草の根っこに吸われて、葉っぱから蒸散します。水は、蒸発するとき、まわりを冷やしてくれます。



時期はそれぞれ異なりますが、都市化は、名古屋市ほとんどの場所ですすんできました。現在は、市域の多くの場所がアスファルトやコンクリートに覆われ、このことが都市の環境問題の一因となっています。

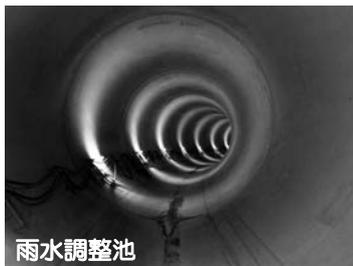
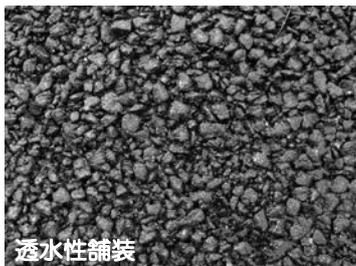


都市化とともに生活は便利になりました。でも、雨が地中にしみこんだり蒸発したりすることが少なくなって、水害対策が大変になったり、まちが暑くなりやすくなるなど、新しい問題も起きているんですね。



こうした状況に対し、名古屋市では「水の環復活2050なごや戦略」を定めています。これはひとこと言くと「昔の水循環の良いところを今できる方法で復活させて、無理なく安全で気持ちいい名古屋にしよう！」というものです。

たとえば、市では、みなさまにもご協力いただきながら、こんなことをしています



そして、市域の約6割が民有地ですので、名古屋市で暮らすみなさまひとりひとりに、雨をためる・地面にしみこませる、蒸発させることにご協力いただきたいと考えています。

ひとりひとりには、たとえばこんなことができます



でも、

なんかイマイチ、よくわからないな...
湧き水なんてあったっけ？



...という方が多いのが現実ではないでしょうか。

市では、水循環について感じて、学んでいただく事業を、郊外（猪高緑地）と都心部（鶴舞公園）で実施しています。鶴舞は、水に関わりの深い歴史的な場所。湧き水を見て、触って、歴史を紐解いて、都市も水循環の舞台だということに思いを馳せていただければ幸いです。

